

民社党を創り、育てた人々—西尾末広ら—

2014年は民社党が解党（1994年12月9日）して20年、民社党の源流である社会民衆党（大正15年12月5日）が結党されてから88年に当たります。これを記念し、友愛労働歴史館は企画展「第四部 同盟ゆかりの人々」第3回では民社党の歴史と基本理念を解説するとともに、西尾末広ら民社党を創り、育てた8名の委員長を取り上げ、紹介いたします。

1.民社党への道—社会民衆党・社会大衆党、日本社会党—



民社党は安保騒動で揺れる1960（昭和35）年1月24日に結党されました。しかし、その歴史は大正15（1926）年の社会民衆党（安部磯雄委員長・片山哲書記長）からスタートしています。社会民衆党はその後、合同して社会大衆党となりますが、1940年、反軍演説を行った斎藤隆夫の衆議院議員除名に反対し、旧社会民衆党系議員は社会大衆党を除名されます。

戦後、日本社会党（片山哲委員長・西尾末広書記長）として創立され、1960年に民主社会党（1970年に民社党）となります。その後、民社党は、野党再編の大きなうねりの中、1994年に新進党に合流するため解党し、35年の歴史に幕を閉じました。

2.民社党の基本理念—フランクフルト宣言・民社党綱領—



民社党は1961年、世界の民主的な社会主義政党が加盟する国際組織・社会主義インターナショナルに加盟し、基本綱領「フランクフルト宣言」に謳われた民主社会主義を基本理念とします。そして1962年に民社党綱領を決定します。民社党綱領は、「民主社会主義の原理に立つ、資本主義と左右の全体主義に対決する、一切の抑圧と搾取から社会の全員を解放する、個人の尊厳を重んじる、人格の自由な発展ができるような社会を建設する」と謳った自由と人権の宣言書でした（写真は1977年の社会主義インター東京首脳会議）。

3.西尾末広ら民社党を創り、育てた8名の委員長たち



1960年の結党時、民社党初代委員長に就任したのは戦前の友愛会・総同盟、社会民衆党からの活動家で、「百折不撓の人」、「鬣を持つ男」と呼ばれた西尾末広でした。

その後、民社党は1994年に解党するまで8名の委員長を有し、35年の活動を積み重ねることになります。各委員長をキャッチフレーズで表現すると、次のようになります。

初代委員長・西尾末広	「戦後改革のリーダーで民社党を結成した西尾末広」
第二代委員長・西村栄一	「沖縄本土並み返還と野党再編を提唱した西村栄一」
第三代委員長・春日一幸	「責任政党路線推進と共産党徹底追及の春日一幸」
第四代委員長・佐々木良作	「西側陣営の安全保障と行政改革推進の佐々木良作」
第五代委員長・塚本三郎	「国鉄改革と税制改革の現実路線を進めた塚本三郎」
第六代委員長・永末英一	「社会主義インターなど国際面でも活躍した永末英一」
第七代委員長・大内啓伍	「PKO推進と非自民連立政権を実現した大内啓伍」
第八代委員長・米沢隆	「民社党解党と新進党への道づくりを担った米沢隆」